



においが感じられなくなり、ステロイド点鼻薬で治療中だが効果なし

52歳、女性。20年前から通年、アレルギー性鼻炎の症状があります。昨冬、秋の花粉症が治まったころ、においが感じられなくなりました。耳鼻咽喉科に受診すると、副鼻腔炎はないとのことで、ステロイドの点鼻薬（一般名：ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム）を処方され、2カ月つづけましたが効果が感じられません。（千葉県 T）

耳鼻咽喉科

笠井耳鼻咽喉科クリニック自由が丘診療室
笠井 創

回答者



A 嗅覚障害は長期にわたる粘り強い治療が必要。
まずは、点鼻薬の使い方の見直しを

嗅覚障害の原因には、①呼吸性嗅覚障害、②嗅粘膜性嗅覚障害、③中枢性嗅覚障害の3種類があります。

①はアレルギー性鼻炎やかぜなどで鼻粘膜が腫れ、鼻の通りが悪くなっておきます。この場合、鼻づまりの原因となる鼻炎などの病気が治れば、自然に嗅覚も戻ります。

②は慢性副鼻腔炎（蓄膿症）やかぜのウイルスなどが原因で嗅神経の機能が低下した場合です。①と②が合併すると嗅覚障害は重症化して、ほとんどにおわなくなることもあります。

③は交通事故などによる頭部外傷や脳腫瘍などで嗅神経や中枢神経系が破壊された場合におこり、回復は望めません。

嗅覚障害の原因の大半は、蓄膿症やアレルギー性鼻炎などの鼻の病気ですから、耳鼻咽喉科で検査や治療を行います。嗅覚神経が生き残っているかは、静脈性嗅覚検査で判断できます。これは、ニン

ニク臭のするアリナミン注射液を静脈注射してにおいを感じるかをチェックするもので、においの反応があれば治療が有効ですが、無反応の場合は回復が望めません。

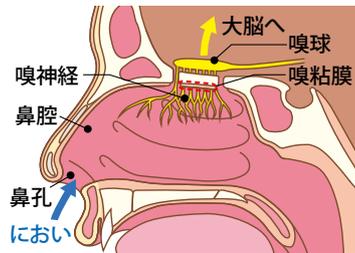
嗅覚障害は長期にわたる粘り強い治療が必要です。ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム点鼻薬はステロイドホルモンが主成分で、におい回復の特効薬です。この薬の使い方は独特で、頭部を凹のように下げる懸垂頭位という状態で点鼻する必要があります。ちよっとしたコツが必要ですから、使い方に関して十分指導を受けて

ください。効果が無いという人の中にも間違った使い方をしている場合があります。

極めて微量を局所に使用するだけなので、重い副作用は出ませんが、漫然と長期間使用することは控えます。

アレルギー性鼻炎がある場合、その治療も継続しないと嗅覚障害は反復して起こります。重症の場合はステロイドの内服薬治療も行うことがあります。下鼻甲介の粘膜腫脹にはレーザー手術やラジオ波凝固治療などで鼻の通りを改善させるのがよいでしょう。

においを感じる仕組み



においの分子は鼻孔を通して鼻腔内に入り、鼻腔の天井部分にある嗅粘膜にたどりつき嗅神経を刺激する。刺激が脳の「においの中核」へ伝わり、どんなにおいが認知される。この経路のどこかに異常があると嗅覚障害がおこる。

嗅覚障害治療のための点鼻薬の使い方



静かに鼻をかんだあと、肩の下に枕を入れあお向けになる。鼻の穴を天井に向け目線をさす要領で、両方の鼻孔に各2〜3滴たらし、数分間、姿勢を保つ。